

おわりに

留萌が将来どんな風が変わっていくのか、まだ未来予
想図が描けていない頃、ニシン漁は最盛期であり、五十
嵐綱治、億太郎親子には黙っていてもお金が入って、裕福
に暮らすことができたはずです。

それなのに、C・S・メークの提案があったとはいえ、
ニシン漁で手にした私財を惜しげなく使って、留萌の
発展に向かって突き進んだのです。

彼らは、私たち留萌人にとって最大の恩人と言っても
過言ではありません。

また、この親子と一緒に活動した留萌の先人たちが示した、留萌の建設にかけた情熱と行動力には、凄まじいエネルギーを感じると共に、ただただ敬意を表すだけです。

この先人たちの想いを現在に生きる我々留萌人が受け継いで、今後の留萌の未来予想図を描き、それに向かって行動を起こしていくことが、先人たちに対する恩返しではないでしょうか。

留萌のために何ができるか、
みんなで考えていくMO~!!

